

(様式第 10)

防医医第 2049 号
平成 26 年 10 月 3 日

厚生労働大臣 殿

管理者 防衛医科大学校病院

防衛医科大学校病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 25 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒162-8801 東京都新宿区市谷本村町 5-1
氏 名	防衛大臣 江渡 聡徳

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

防衛医科大学校病院

3 所在の場所

〒359-8513 埼玉県所沢市並木 3-2	電話(04)2995-1511
------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<p>1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜</p> <p>2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜</p>

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有	無
内科と組み合わせた診療科名等		
1 循環器内科 2 腎臓内科 3 内分泌・代謝内科 4 消化器内科 5 感染症・呼吸器内科 6 血液内科		
7 神経内科		
診療実績		

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に

について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	有	無
外科と組み合わせた診療科名 1 消化器外科 2 心臓・血管外科 3 呼吸器外科 4 乳腺・内分泌外科 5 小児外科		
診療実績		

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1 精神科	2 小児科	3 整形外科	4 脳神経外科	5 皮膚科	6 泌尿器科	7 産婦人科	8 産科
9 婦人科	10 眼科	11 耳鼻咽喉科	12 放射線科	13 放射線診断科	14 放射線治療科	15 麻酔科	
16 救急科							

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有	無
歯科と組み合わせた診療科名 1 歯科口腔外科 2 3 4 5 6 7		
歯科の診療体制		

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 形成外科	2 がん・薬物療法・腫瘍内科	3 4 5 6
7 8 9 10 11 12 13		
14 15 16 17 18 19 20		

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
36床	10床	床	床	754床	800床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成26年10月1日現在)

職 種	常勤	非常勤	合 計	職 種	員数	職 種	員 数
医 師	223人	45人	225.9人	看護補助者	25人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	9人	2人	9人	理学療法士	3人	臨床検査技師	32人
薬剤師	22人	0人	22人	作業療法士	2人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	3人	その他	0人
助産師	11人	0人	11人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	414人	11人	417.9人	臨床工学技士	5人	医療社会事業従事者	4人
准看護師	0人	1人	0.3人	栄養士	0人	その他の技術員	4人
歯科衛生士	2人	0人	2人	歯科技工士	1人	事務職員	68人
管理栄養士	4人	0人	4人	診療放射線技師	20人	その他の職員	37人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成26年10月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	25人	眼科専門医	7人
外科専門医	35人	耳鼻咽喉科専門医	13人
精神科専門医	11人	放射線科専門医	15人
小児科専門医	11人	脳神経外科専門医	10人
皮膚科専門医	5人	整形外科専門医	13人
泌尿器科専門医	9人	麻酔科専門医	12人
産婦人科専門医	8人	救急科専門医	7人
		合 計	181人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	428.0人	3.8人	431.7人
1日当たり平均外来患者数	1,202.0人	44.2人	1,246.2人
1日当たり平均調剤数	624.4剤		
必要医師数	114人		
必要歯科医師数	3人		
必要薬剤師数	15人		
必要(准)看護師数	258人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
			病床数		心電計	有・無
集中治療室	203.2m ²	鉄筋コンクリート	病床数	11床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 24.4m ² [移動式の場合] 台数 10台		病床数	2床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 37.8m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	252m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 生化学迅速検体検査システム、全自動化学発光免疫測定装置、全自動蛍光酵素免疫測定装置、血液ガス分析装置			
細菌検査室	270m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動細菌検査装置、全自動抗酸菌培養検査システム、全自動高圧滅菌器、恒温器、CO ₂ 培養器			
病理検査室	252m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 電子顕微鏡、自動免疫組織化学染色装置、染色封入システム、凍結標本作製システム、密閉式自動固定包埋装置			
病理解剖室	164m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台、空気清浄排気システム、安全キャビネット、ホルマリン希釈装置、超低温槽			
研究室	18,661m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 電子顕微鏡、遺伝子導入装置、定量遺伝子増幅装置、生体分子間相互作用解析装置、質量分析システム			
講義室	5,435m ²	鉄筋コンクリート	室数	13室	収容定員	1,200人
図書室	3,023m ²	鉄筋コンクリート	室数	8室	蔵書数	約19万冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成26年4月1日～平成26年8月30日	
紹介率	88.1%	逆紹介率	45.2%
算出根拠	A: 紹介患者の数		5,741人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		3,609人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,283人
	D: 初診の患者の数		7,977人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
経皮的肺がんラジオ波焼灼法 原発性又は転移性肺がん(切除が困難なものに限る)	0人
経皮的腎がんラジオ波焼灼法 原発性又は転移性腎がん(切除が困難なものに限る)	12人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示
第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱患者数	疾 患 名	取扱患者数
・ベーチェット病	21人	・膿疱性乾癬	1人
・多発性硬化症	16人	・広範脊柱管狭窄症	1人
・重症筋無力症	35人	・原発性胆汁性肝硬変	21人
・全身性エリテマトーデス	67人	・重症急性膵炎	9人
・スモン	0人	・特発性大腿骨頭壊死症	10人
・再生不良性貧血	16人	・混合性結合組織病	3人
・サルコイドーシス	41人	・原発性免疫不全症候群	7人
・筋萎縮性側索硬化症	7人	・特発性間質性肺炎	8人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	50人	・網膜色素変性症	7人
・特発性血小板減少性紫斑病	20人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	17人	・肺動脈性肺高血圧症	2人
・潰瘍性大腸炎	31人	・神経線維腫症	2人
・大動脈炎症候群	6人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ピュルガー病	5人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	10人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	4人
・脊髄小脳変性症	12人	・ライソゾーム病	0人
・クローン病	40人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	2人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	4人	・脊髄性筋萎縮症	1人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	43人	・球脊髄性筋萎縮症	3人
・アミロイドーシス	2人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	7人
・後縦靭帯骨化症	20人	・肥大型心筋症	1人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	1人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	14人	・ミトコンドリア病	2人
・ウェゲナー肉芽腫症	1人	・リンパ管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	28人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	1人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	12人	・黄色靭帯骨化症	2人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	16人

(注)「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・糖尿病合併症管理料	・経皮的冠動脈形成術
・がん性疼痛緩和指導管理料	・経皮的冠動脈ステント留置術
・地域連携診療計画管理料	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・薬剤管理指導料	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・医療機器安全管理料1	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)
・歯科治療総合医療管理料	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・造血器腫瘍遺伝子検査	・経皮的動脈遮断術
・HPV核酸検出	・ダメージコントロール手術
・検体検査管理加算(I)	・腹腔鏡下肝切除術
・検体検査管理加算(III)	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・検体検査管理加算(IV)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
・神経学的検査	・同種死体腎移植術
・小児食物アレルギー負荷検査	・生体腎移植術
・センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る。)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・画像診断管理加算1	・人工尿道括約筋植込・置換術
・CT撮影及びMRI撮影	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・外来化学療法加算1	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
・無菌製剤処理料	・麻酔管理料(I)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(II)	・外来放射線治療加算
・運動器リハビリテーション料(I)	・高エネルギー放射線治療
・透析液水質確保加算1	・1回線量増加加算
・皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・酸素単価
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・
・乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
 (注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1週間に4回程度
剖 検 の 状 況	剖検症例数 43例 / 剖検率 14.4%

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	三浦 総一郎	内科学	1,500,000	補委	厚労科研費
機能性ディスベシアに対する六君子湯の有効性・安全性の科学的エビデンスを創出するための多施設共同二重盲検無作為化プラセボ対照比較試験	三浦 総一郎	内科学	1,500,000	補委	厚労科研費
新型インフルエンザ等の院内感染制御に関する研究	川名 明彦	内科学	1,700,000	補委	厚労科研費
動脈硬化性大動脈弁・血管病変進展におけるストレス応答性分泌蛋白の役割の解明	伯野 大彦	内科学	1,200,000	補委	文科科研費
尿解析による腎疾患の診断に関する検討	尾田 高志	内科学	800,000	補委	文科科研費
セリアック病の臨床実態調査と、その経過に関する前向き検討	渡邊 知佳子	内科学	700,000	補委	文科科研費
血液透析患者における脂質異常症に対するスタチンのアポ蛋白代謝改善効果の解明	池脇 克則	内科学	700,000	補委	文科科研費
HDLによる動脈硬化抑制機構の解明-ABC A1/G1のタンパク分解制御の役割	綾織 誠人	内科	800,000	補委	文科科研費
抗ガングリオシト抗体の神経障害機構の解明と新規治療法の開発	海田 賢一	内科	2,500,000	補委	文科科研費
肥満関連性因子ANGPLT2を介した、脂肪肝炎・肝臓癌の病態機序の解明	富田 謙吾	内科	1,700,000	補委	文科科研費
福島第一原子力発電所事故後旧作業のストレスが労働者のメンタルヘルスに及ぼす影響	重村 淳	精神科学	4,500,000	補委	厚労科研費
母子分離ストレスの不安行動の脆弱性への影響とその分子機構解明	戸田 裕之	精神科学	1,800,000	補委	文科科研費
ストレスに対する細胞応答	丹生谷 正志	精神科	1,600,000	補委	文科科研費
原発性免疫不全症に対する造血幹細胞移植法の確立	野々山 恵章	小児科学	46,800,000	補委	厚労科研費
血液免疫系細胞分化障害による疾患の診断と治療に関する調査研究	野々山 恵章	小児科学	41,000,000	補委	厚労科研費
原発性免疫不全症候群に関する調査研究	野々山 恵章	小児科学	3,500,000	補委	厚労科研費
自己炎症疾患とその類縁疾患に対する新規診療基盤の確立	野々山 恵章	小児科学	2,000,000	補委	厚労科研費
原発性免疫不全症候群患者支援団体による患者レジストリの構築を通じた研究支援体制の構築に関する研究	野々山 恵章	小児科学	300,000	補委	厚労科研費
KREC/TRECによる先天性免疫不全症スクリーニング法開発と病態解析への応用	野々山 恵章	小児科学	4,100,000	補委	文科科研費
ダウン症児における一過性骨髄増殖症の発症と自然治癒機構の分子・生物学的解析	川口 裕之	小児科学	200,000	補委	文科科研費
個別化がん医療を目指した新規バイオマーカー開発	長谷 和生	外科学	1,200,000	補委	厚労科研費
手術手技の最適化による標準治療確立のための多施設共同研究	長谷 和生	外科学	600,000	補委	厚労科研費
国内外科手術成績を基礎とした経口抗がん剤による治療切除大腸癌術後補助療法の確立	長谷 和生	外科学	700,000	補委	厚労科研費
高度リンパ節転移を伴う進行胃癌の根治を目指した術前化学療法+拡大手術法の確立	辻本 広紀	外科学	400,000	補委	厚労科研費
隊がん切除例に対する補助療法の向上を目指した多施設共同研究	山本 順司	外科学	500,000	補委	厚労科研費

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
大腸癌先進部に着目した分子発現の検討 —組織マイクロアレイを用いた網羅的解析—	長谷 和生	外科学	1,300,000	(補委) 文科科研費
超分子デバイスをを用いた胃癌の転移診断と 光線力学療法の効果に関する研究	辻本 広紀	外科学	1,200,000	(補委) 文科科研費
光による肝細胞機能の計測に関する研究	山本 順司	外科学	1,800,000	(補委) 文科科研費
着磁体による磁界の乱れを利用した閉鎖前 ガーゼ感知システムの開発	檜 頭成	外科	400,000	(補委) 文科科研費
アトピー性皮膚炎の難治性皮膚病変の病態 解析と病態に基づいたピンポイントな新規治 療の開発	佐藤 貴浩	皮膚科学	1,000,000	(補委) 厚労科研費
特発性発汗異常症・色素異常症の病態解析 と新規治療薬開発に向けた戦略的研究	佐藤 貴浩	皮膚科学	2,000,000	(補委) 厚労科研費
好酸球・好塩基球を標的とした慢性そう痒性 アレルギー疾患治療と痒みの制御の研究	佐藤 貴浩	皮膚科学	700,000	(補委) 文科科研費
閉塞性腎症における腎線維化を抑制する新 しい薬物治療の開発	伊藤 敬一	泌尿器科学	1,100,000	(補委) 文科科研費
前立腺癌に対するユビキチン化蛋白質蓄積を 介した新規治療法の開発	佐藤 全伯	泌尿器科学	1,400,000	(補委) 文科科研費
腎細胞癌における小胞体ストレス応答と腫瘍 進展の機序	黒田 健司	泌尿器科学	500,000	(補委) 文科科研費
前立腺癌手術における的確な神経温存のた めの光音響画像化技術の有用性の検証	堀口 明男	泌尿器科	2,000,000	(補委) 文科科研費
網膜抗原特異的サイトカイン測定によるイン フリキシマブ治療の運用、効果判定の検討	竹内 大	眼科学	1,200,000	(補委) 文科科研費
角膜上皮細胞における紫外線暴露による p38活性化と上皮間葉系移行と細胞死の制 御	加藤 直子	眼科学	1,200,000	(補委) 文科科研費
NO口腔癌における選択的頸部郭清術とセン チネル神経節ナビゲーション手術の無作為化比 較試験	塩谷 彰浩	耳鼻いんこう科学	900,000	(補委) 厚労科研費
内耳障害における酸化ストレスの関与の解明 と新規診断法および新規治療法の開発	松延 毅	耳鼻いんこう科学	1,400,000	(補委) 文科科研費
頭頸部癌に対するDNA修復阻害遺伝子導 入による化学療法および放射線療法増感効 果	山下 拓	耳鼻いんこう科学	1,100,000	(補委) 文科科研費
難治性喉頭癌に対する遺伝子治療の応 用	荒木 幸仁	耳鼻いんこう科学	800,000	(補委) 文科科研費
化学療法先行治療を進行卵巣がんの標準 治療とするための研究	高野 政志	産科婦人科学	800,000	(補委) 厚労科研費
術中覚醒を減少させるための麻酔関連薬剤 の薬物動態力学研究	増井 健一	麻酔科	800,000	(補委) 文科科研費
吸入麻酔薬が肝臓免疫能に与える影 響	高橋 哲也	麻酔科	1,400,000	(補委) 文科科研費
ERK2標的遺伝子欠マウスを用いた脳機能 におけるERK2の役割の解明	佐藤 泰司	麻酔科	1,300,000	(補委) 文科科研費
吸入麻酔の種類による幼若脳の障害の発現 型及び程度の比較	児玉 光厳	麻酔科学	900,000	(補委) 文科科研費
インドシアニングリーン金ナノ粒子結合体 を用いた腫瘍および尿管癌の診断治療技 術	東 隆一	形成外科	800,000	(補委) 文科科研費
舌接触補助床の最適形態を導く嚥下圧と嚥 下造影検査を用いた評価法の確立	唐帆(中島)純子	歯科口腔外科	600,000	(補委) 文科科研費
ピロリ菌と胃炎起因菌の共存が胃癌細胞の 増殖に与える影響	西川 可穂子	救急部	1,700,000	(補委) 文科科研費
ホルモン受容体機構異常に関する調査研究	田中 祐司	総合臨床部	1,600,000	(補委) 厚労科研費
肺高血圧症等による右心負荷の致死性不整 脈の発生機序の解明	高瀬 凡平	集中治療部	2,600,000	(補委) 文科科研費

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Nishizawa Kenya	内科学	Continuous inhibition of poly(ADP-ribose) polymerase does not reduce reperfusion injury in isolated rat heart.	Journal of Cardiovascular Pharmacology 62(1):99-105, 2013
2	Kujiraoka Takehiko	内科学	Hepatic extracellular signal-regulated kinase 2 suppresses endoplasmic reticulum stress and protects from oxidative stress and endothelial dysfunction.	Journal of The American Heart Association 2(4): e000361, 2013
3	Nishida Takafumi	内科学	Images in clinical medicine. Endocardial calcification in Behçet's disease.	New England Journal of Medicine 369(21):e28, 2013.
4	Okada Y	内科学	Trans fatty acids in diets act as a precipitating factor for gut inflammation? (S29-32)	J Gastroenterol Hepatol Suppl 4: 29-32, 2013.12
5	Okada Y	内科学	Trans fatty acids exacerbate dextran sodium sulphate-induced colitis by promoting the up-regulation of macrophage-derived proinflammatory cytokines involved in T helper 17 cell polarization. (174(3):459-71)	Clin Exp Immunol 174(3): 459-471, 2013.12
6	Hozumi H	内科学	Phlebotomous colitis that was difficult to distinguish from collagenous colitis. (2013 [Epub ahead of print])	Dig Endosc [Epub ahead of print], 2013.7
7	Tomita K	内科学	Free cholesterol accumulation in hepatic stellate cells: mechanism of liver fibrosis aggravation in nonalcoholic steatohepatitis in mice. (59(1):154-69)	Hepatology 59(1): 154-169, 2014.1
8	Okada Y	内科学	1,4-Dihydroxy-2-naphthoic acid from ropionibacterium freudenreichii reduces inflammation in interleukin-10-deficient mice with colitis by suppressing macrophage-derived proinflammatory cytokines.	J Leukoc Biol 94(3): 473-480, 2013.9
9	Uemura N	内科学	Risk factor profiles, drug usage, and prevalence of aspirin-associated gastroduodenal injuries among high-risk cardiovascular Japanese patients: the results from the MAGIC study. (49(5):814-24)	J Gastroenterol 49(5): 814-824, 2014.5
10	Watanabe C	内科学	Prevalence of serum celiac antibody in patients with IBD in Japan. (49(5):825-34)	J Gastroenterol 49(5): 825-834, 2014.5
11	Hozumi H	内科学	Involvement of autotaxin/lysophospholipase D expression in intestinal vessels in aggravation of intestinal damage through lymphocyte migration.	Lab Invest 93(5): 508-519, 2013.5
12	Hozumi H	内科学	Endoscopic finding of spontaneous hemorrhage correlates with tumor necrosis factor alpha expression in colonic mucosa of patients with ulcerative colitis.	Int J Colorectal Dis 28(8): 1049-1055, 2013.8
13	Sato S	内科学	Dietary lipids and sweeteners regulate glucagon-like peptide-2 secretion. (304(8):G708-14)	Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol 304(8): G708-714, 2013.4
14	Mikita Kei	内科学	Does anti-JCV therapy improve the prognosis of AIDS-related PML?	Clinical Neurology and Neurosurgery
15	Yuji Fujikura	内科学	The (H1N1) 2009 Pandemic Influenza Pneumonia among Adult Patients in Japan	Japanese Journal of Infectious Diseases 67(2): pp.100-104
16	Yuji Fujikura	内科学	Pleuroparenchymal Fibroelastosis as a Series of Airway Complications Associated with Chronic Graft-versus-host Disease following Allogeneic Bone Marrow Transplantation	Internal Medicine 53: pp.43-46
17	Shinichi Kobayashi	内科学	Reversible istrogenic, MTX-associated EBV-driven lymphoproliferation with histopathological features of a lymphomatoid granulomatosis in a patient with rheumatoid arthritis.	Ann Hematol. 92(11):1561-4, 2014.
18	Shohei Yamamoto	内科学	Quantitative polymerase chain reaction detection of CEP110-FGFR1 fusion gene in a patient with Bp11 myeloproliferative syndrome.	Leuk Lymphoma. 54(9):2068-9, 2014.
19	Kaida K	内科学	An antibody to the GM1/GaINAc-GD1a complex correlates with development of pure motor Guillain-Barré syndrome with reversible conduction failure.	J Neuroimmunol 254(1-2): 141-145, 2013.
20	Kaida K	内科学	A new maneuver for repetitive nerve stimulation test in the trapezius muscle.	Muscle Nerve 47(5):668-72, 2013.
21	Kaida K	内科学	Far-field potentials in hypothermic motor unit number estimation.	Muscle Nerve 48(2):91-7, 2013.
22	Kaida K	内科学	Pathogenic roles of antiganglioside antibodies in immune-mediated neuropathies.	Clinical and Experimental Neuroimmunology 5: 1-10, 2013.
23	Kaida K	内科学	Successful treatment of infliximab-associated immune-mediated sensory polyradiculopathy with intravenous immunoglobulin.	J Clin Neurosci. 20(11):1618-9, 2013.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
24	Shigemura J	精神科学	Associations between disaster exposures, peritraumatic distress, and posttraumatic stress responses in Fukushima nuclear plant workers following the 2011 nuclear accident: the Fukushima NEWS Project study.	PLoS One 9(2):e87516, 2014.02
25	Yamashita J	精神科学	The Great East Japan Earthquake, tsunami, and Fukushima Daiichi nuclear power plant accident: a triple disaster affecting the mental health of the country.	Psychiatr Clin North Am 36(3):351-70, 2013.09
26	Ogawa T	精神科学	Interpersonal sensitivity associated with return to work status following sick leave: a cross-sectional study among Japanese workers with major depressive disorder.	Asian J Psychiatr 6(2):146-50, 2013.04
27	Suda T	精神科学	Postictal sympathetic response to electroconvulsive therapy in patients with schizophrenia.	Schizophr Res 147(1):205-6, 2013.06
28	Enomoto S	精神科学	Electroconvulsive therapy-induced Wolf-Parkinson-White syndrome: a case report.	Gan Hosp Psychiatry 35(5):e7-8, 2013.09
29	Nakayama H	精神科学	Two cases of mild serotonin toxicity via 5-hydroxytryptamine 1A receptor stimulation.	Neuropsychiatr Dis Treat 10:283-7, 2014.02
30	Suzuki G	精神科学	Decreased plasma brain-derived neurotrophic factor and vascular endothelial growth factor concentrations during military training.	PLoS One 9(2):e89455, 2014.02
31	Kamae C	小児科学	Common variable immunodeficiency classification by quantifying T-cell receptor and immunoglobulin κ -deleting recombination excision circles.	J Allergy Clin Immunol. 2013 May;131(5):1437-1440.
32	Nonoyama S	小児科学	Neonatal herpes encephalitis caused by a virologically confirmed acyclovir resistant herpes simplex virus type 1.	J. Clin. Microbiol. 2013 Jan;51(1):356-359.
33	Kojima R	小児科学	Factors Associated with Steroid Phobia in Caregivers of Children with Atopic Dermatitis.	Pediatr Dermatol. 2013 Jan-Feb;30(1):29-35.
34	Kojima R	小児科学	Salivary Cortisol Response to Stress in Young Children with Atopic Dermatitis.	Pediatr Dermatol. 2013 Jan-Feb;30(1):17-22.
35	Nonoyama S	小児科学	Impaired KLF3-Mediated Ubiquitination of WNK4 Causes Human Hypertension.	Cell Reports. 2013 Mar;3(3):858-868.
36	Osawa M	小児科学	CUL3 gene analysis enables early intervention for pediatric pseudohypoadosteronism type II in infancy.	Pediatr Nephrol. 2013 Sep;28(9):1881-1884.
37	Kato T	小児科学	Maternal mosaicism of an ANKH mutation in a family with craniofacial dysplasia.	Pediatrics international. 2013 Apr;55(2):254-256
38	Isobe K	小児科学	Development of enzyme-linked immunosorbent assays for urinary thiazide-sensitive Na-Cl cotransporter (NCC) measurement.	Am J Physiology Renal Physiology. 2013 Nov;305(9):1374-1381.
39	Chida A	小児科学	ACVRL1 Gene Variant in a Patient with Vein of Galen Aneurysmal Malformation.	J Pediatr Genet. 2013 2(4):181-189
40	Kojima R	小児科学	Galectin-9 enhances cytokine secretion, but suppresses survival and degranulation, in human mast cell line.	PLoS One. 2014 Jan;9(1):e86106
41	Kawaguchi H	小児科学	Case of cytomegalovirus-associated direct anti-globulin test-negative autoimmune hemolytic anemia.	Pediatr Int. 2013 Dec;55(6):785-788.
42	Satoshi Ono	外科学	Removal of increased circulating CD4 + CD25 + Foxp3 + regulatory T cells in patients with septic shock using hemoperfusion with polymyxin B-immobilized fibers	Surgery 153(2): p.262-271, 2013.01
43	Junji Yamamoto	外科学	Right-sided retrocaval approach using guidance via the lesser sac for Spiegel lobe resection	Surgery 153(2): p.282-286, 2013.01
44	Hironori Tsujimoto	外科学	Distance between the esophageal tumor and the aorta measured by using the contrast-enhanced attenuation on computed tomography for predicting this tumor invading aorta.	Journal of Gastroenterology and Hepatology 28: p.297-302, 2013.02
45	Hideki Ueno	外科学	Objective Criteria for Crohn-like Lymphoid Reaction in Colorectal Cancer	Am J Clin Pathol 139(4): p.434-441, 2013.04
46	Hironori Tsujimoto	外科学	Predictive value of pleural and serum interleukin-6 levels for pneumonia and hypo-oxygenations after esophagectomy	J Surg Res 182: p.e61-e67, 2013.04
47	Toshimichi Takigawa	外科学	Glucocorticoid receptor-dependent immunomodulatory effect of ursodeoxycholic acid on liver lymphocytes in mice	Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol 305: p.G427-438, 2013.08
48	Hideki Ueno	外科学	Characterization of Perineural Invasion As a Component of Colorectal Cancer Staging	Am J Surg Pathol 37: p.965-971, 2013.10
49	Touru Kubo	外科学	Elevated preoperative C-reactive protein levels are a risk factor for the development of postoperative infectious complications following elective colorectal surgery	Langenbeck's Arch Surg 398: p.965-971, 2013.10
50	Koichi Okamoto	外科学	Lack of preoperative enteral nutrition reduces gut-associated lymphoid cell numbers in colon cancer patients	Ann Surg 258(6): p.1059-1064, 2013.12

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
51	Shingo Nakamura	外科学	Improvement of Hydrodynamics-Based Gene Transfer of Nonviral DNA Targeted to Murine Hepatocytes.	BioMed Research International, 2013(928790): 1-9, 2013.04
52	Shingo Nakamura	外科学	Site-targeted non-viral gene delivery by direct DNA injection into the pancreatic parenchyma and subsequent in vivo electroporation in mice.	Biotechnology Journal, 2013(201300): 1-9, 2013.08
53	Susumu Isoda	外科学	Occupational true aneurysm of the ulnar artery: a case report of hypothenar hammer syndrome	Annals of Vascular Diseases, 6(3): 655-657, 2013.08
54	Shingo Nakamura	外科学	Interaction of silver nanoparticles and chitin powder with different sizes and surface structures: The correlation with antimicrobial activities	Journal of Nanomaterials, 2013(10467534): 1-9, 2013.09
55	Susumu Isoda	外科学	Papillary Fibroelastoma of the Papillary Muscle of the Tricuspid Valve: Reconstruction of the Papillary Muscle	Open Journal of Thoracic Surgery, 3(3), 69-72, 2013.09
56	Susumu Isoda	外科学	Lung Injury Resulting from Fluted Silastic Soft Drain Extraction under Negative Pressure Suction	Open Journal of Thoracic Surgery, 3(3), 73-75, 2013.09
57	Kensuke Mio	整形外科科学	Intra-articular Synovial Chondromatosis of the Anterior Cruciate Ligament	J.Bone&Joint Surgery 4(1):p.1-3,2014.01
58	Keitaro Matsukawa	整形外科科学	Morphometric Measurement of Cortical Bone Trajectory for Lumbar Pedicle Screw Insertion Using Computed Tomography	J Spinal Disord Tech 26(6)p.E248-E253,2013.08
59	Yasuo Yoshihara	整形外科科学	Backflow from a Metallosis-Induced Intrapelvic Mass into a Revision Hip Arthroplasty -A Case Report	JBJS Case Connect 3(3):p.e66-1-e66-5,2013.07
60	Kouji Yamamoto	整形外科科学	Therapeutic Effect of Exendin-4, a Long-Acting Analogue of Glucagon-Like Peptide-1 Receptor Agonist, on Nerve Regeneration after the Crash Nerve Injury	BioMed Research International:p.1-7,2013.07
61	Masamitsu Tanaka	整形外科科学	Linezolid-Bancomycin Decrease the Therapeutic Effect of Methylene Blue-Photodynamic therapy in a Mouse Model of MRSA Bacterial Arthritis	Photochemistry and Photobiology 89:p.679-682,2013.05
62	Satoh T	皮膚科学	Acrosyringeal involvement of palmoplantar lesions of eosinophilic pustular folliculitis	Acta Dermat Venereol 93:P99-2013
63	Satoh T	皮膚科学	Close association between metal allergy and nail lichen planus: detection of causative metals in nail lesions	J Eur Acad Derm Venereol 27:P231-234,2013
64	Satoh T	皮膚科学	Verbalizing Extremes of the Visual Analogue Scale for Pruritus: A Consensus Statement.	Acta Derm Venereol 93:P214-215,2013
65	Takahashi E	皮膚科学	Atrophic fibrous hamartoma of infancy with epidermal and adnexal changes.	J Dermatol 40P212-214,2013
66	Satoh T	皮膚科学	IgG4-positive cells in skin lesions of cutaneous and systemic plasmacytosis.	Eur J Dermatol 23:255-256,2013
67	Satoh T	皮膚科学	Immunolocalization and translocation of aquaporin-5 water channel in sweat glands	J Dermatol Sci 70:P26-33,2013
68	Hashimoto T	皮膚科学	Kimura's disease with prurigo lesions treated with systemic indomethacin	J Eur Acad Dermatol Venereol 28:P9,1260-1262
69	Satoh T	皮膚科学	α (1,3) fucosyltransferases-IV and VII are essential for the initial recruitment of basophils in chronic allergic inflammation	J Invest Dermatol 133:P2161-2169,2013
70	Satoh T	皮膚科学	Indomethacin inhibits eosinophil migration to prostaglandin D2: therapeutic potential of CRTX2 desensitization for eosinophilic pustular folliculitis	Immunology 140:P78-86,2013
71	Satoh T	皮膚科学	Anti-tumor effects of inactivated Sendai virus particles with an IL-2 gene on angiosarcoma	Clin Immunol 149:P1-16,2013
72	Maeda M	皮膚科学	Bilateral breast edema associated with nephrotic syndrome	Eur J Dermatol 23:P739-740,2013
73	Fujimoto N	皮膚科学	Verruciform Xanthoma results from epidermal apoptosis with galectin-7 overexpression	Eur J Acad Dermatol Venereol 27:P922-923,2013
74	Fujimoto N	皮膚科学	Ultraviolet irradiation may generate plane xanthomas on mycosis fungoides	Br J Dermatol 168:218-220,2013
75	Takeuchi M	眼科学	Successful treatment with infliximab for Behçet disease during pregnancy.	Ocular Immunology and Inflammation 21(4):321-323 2013.4
76	Takeuchi M	眼科学	Takayama K, Usui Y, Ito M, Goto H, Takeuchi M: A case of sebaceous adenoma of the eyelid showing excessively rapid growth.	Clinical Ophthalmology 7/657-670 2013.7
77	Takeuchi M	眼科学	Acute anterior uveitis after discontinuation of tocilizumab in a patient with rheumatoid arthritis.	Clinical Ophthalmology 8/187-90 2014.8

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
78	Takeuchi M	眼科学	Short-Term Outcomes of Coaxial Microincision Cataract Surgery for Uveitis-Associated Cataract without Postoperative Systemic Steroid Therapy.	Ophthalmologica 231(2)/111-116, 2014.2
79	Takeuchi M	眼科学	Deep stromal opacity after corneal cross-linking.	Cornea 32(7)/ 895-898 2013.7
80	Takeuchi M	眼科学	Hypotensive effect of atanoprost/timolol versus travoprost/timolol fixed combinations in NTG patients: a randomized, multicenter, crossover clinical trial.	Invest Ophthalmology Visual Science 54(9)/6242-6247 2013.9
81	Takeuchi M	眼科学	Use of a Comprehensive Polymerase Chain Reaction System for Diagnosis of Ocular Infectious Diseases.	Ophthalmology 120(9)/1761-1768 2013.9
82	Takeuchi H	耳鼻咽喉科学	Clinical and immunological implications of increase in CD208+ dendritic cells in tonsils of patients with immunoglobulin A nephropathy.	Nephrol Dial Transplant 28(12):3004-13.2013
83	Mayuka Maeda	耳鼻咽喉科学	Outpatient oral chemotherapy with s-1 for unresectable or distant metastatic head and neck cancer.	Anticancer Res. 33(6):3285-9.2013
84	Mizokami Daisuke	耳鼻咽喉科学	Sendai virus transgene in a novel gene therapy for laryngotracheal disease.	Laryngoscope. 123(7):1717-24.2013
85	Tomifuji M	耳鼻咽喉科学	Comparison of voice quality after laser cordectomy with that after radiotherapy or chemoradiotherapy for early glottic carcinoma.	ORL J Otorhinolaryngol Relat Spec. 75(1):18-26.2013
86	Nobuaki Tanaka	耳鼻咽喉科学	Fibroepithelial polyp of the external auditory canal: a case report and a literature review.	Case Rep Otolaryngol. vol. 2013, Article ID 818197, 4 pages, .
87	Koji Araki	耳鼻咽喉科学	Targeted gene transfer into head and neck squamous cell carcinoma by nanosecond pulsed laser-induced stress waves.	Lasers Med Sci. 29(1):231-8.2014
88	Shigeru Kosuda	放射線科学	Report on the Current Nuclear Medicine Status of the Asian Member States from the Initial Cooperative Project Meeting (RAS6061/9001/01) of International Atomic Energy Agency/Regional Cooperative Agreement (IAEA/RCA).	Austral-Asian Journal of Cancer 12() : P 135 - 145 .2013. 1
89	Chiharu Tamura	放射線科学	Diffusion kurtosis imaging study of prostate cancer: Preliminary findings.	J Magn Reson Imaging 31(OCT): pp.DOI-jmri24379
90	Shigeyoshi Soga	放射線科学	CT Angiography for Surgical Planning in Face Transplantation Candidates.	American Journal of Neuroradiology 34(10): pp.1873-1881.
91	Masahiro Horikawa	放射線科学	18F-FDG PET/CT and MR Findings of ovarian carcinosarcoma within a dermoid cyst.	Clin Nucl Med Dec(2): pp.PMID-24309346
92	Takaenoki Yumiko	麻酔科学	Neonatal exposure to sevoflurane in mice causes deficits in maternal behavior later in adulthood.	Anesthesiology 120(2): p.403-415, 2014.02.
93	Tsutsui Masato	麻酔科学	Pulse Wave Transit Time Measurements of Cardiac Output in Patients Undergoing Partial Hepatectomy: A Comparison of the esCCO System with Thermolulution.	Anesthesia and Analgesia 117(6): p.1307-1312, 2013.12.
94	Yuki Washimi	形成外科学	Transplantation of inbred adipose-derived stromal cells in rats with plasma gel containing fragmin/protamine microparticles and FGF-2	J Biomed Mater Res B Appl Biomater. 2013;101(5): 784-91
95	Yuki Washimi	形成外科学	Effective Wound Healing in Streptozotocin-Induced Diabetic Rats by Adipose-Derived Stromal Cell Transplantation in Plasma-Gel Containing Fragmin/Protamine Microparticles	Ann Plast Surg. 2014;72(1):113-120.
96	Ohata Y	検査部	Proteomic analysis of the lung in rats with hypobaric hypoxia-induced pulmonary hypertension.	Histol Histopathol 28, 893-902, 2013.
97	Horiuchi T	検査部	Immunohistochemistry of cytokeratins 7, 8, 17, 18, and 19, and GLUT-1 aids differentiation of desmoplastic malignant mesothelioma from fibrous pleuritis.	Histol Histopathol 28, 663-70, 2013.
98	Takeuchi S	検査部	Increased xCT expression correlates with tumor invasion and outcome in patients with glioblastomas.	Neurosurgery 72, 33-41, 2013.
99	Takahashi H	検査部	Malignant lymphoma case with urinary cytology mimicking that of urothelial carcinoma.	Cytopathology. 2013 Dec;24(6):412-4.
100	Kahoko Nishikawa	救急部	Detection of changes in the structure and distribution map of triacylglycerol in fatty liver model by MALDI-SpiralTOP	FEBS OpenBio.4: p.179-184. 2014.02
101	Yoshihiro Tanaka	救急部	Right Ventricular Electrical Remodeling and Arrhythmogenic Substrate in Rat Pulmonary Hypertension	Am J Respir Cell Mol Biol. 49:p426-436, 2013.09.

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
 - 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・手順書の主な内容 審査申請者は申請書を防衛医科大学校長へ提出。学校長は委員会に諮問。委員会は審査し、結果を学校長に答申。学校長は答申に基づき審査結果を本人に通知。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年11回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・規定の主な内容 利益相反を審議する利益相反委員会、不正防止計画の策定、コンプライアンス意識の啓発等を推進する不正対策防止室、不正に関する情報の通報窓口、不正に関する通報等があった場合に調査、審査、認定を行う不正対応委員会の設置及びその手続	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年18回

- (注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
・研修の主な内容 臨床研究を行う上で必要な各種指針の趣旨、倫理委員会の審査の手続、被験者からのインフォームドコンセントを受ける手続に関する講習	

- (注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

医師である幹部自衛官（医官）に対して、国際貢献や災害時活動など国家的緊急事態における突発的な疾病・傷害に対する幅広い初期診療能力を習得させることを目標としている。災害初期診療における重症外傷患者に対して系統的な理論に基づいた診断と初期治療を迅速かつ的確に行う能力を身につけるとともに大量傷者発生に対応できる基本的能力を獲得させる。また専門領域以外の領域における初期診療に必要な基本的な知識を修得させ、積極的に救急医療及び災害医療の研修機会を持たせる。

2 研修の実績

研修医の人数	95人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
足立 健	内科	教授	25年	
熊谷 裕生	内科	教授	32年	
穂刈 量太	内科	教授	23年	
川名 明彦	内科	教授	30年	
木村 文彦	内科	教授	30年	
池脇 克則	内科	教授	30年	
山本 順司	外科	教授	33年	
長谷 和生	外科	教授	33年	
田口 眞一	外科	教授	30年	
吉野 相英	精神科	教授	30年	
野々山 恵章	小児科	教授	32年	
根本 孝一	整形外科	教授	38年	
森 健太郎	脳神経外科	教授	32年	
佐藤 貴浩	皮膚科	教授	29年	
浅野 友彦	泌尿器科	教授	33年	
古谷 健一	産科婦人科	教授	35年	
竹内 大	眼科	教授	25年	
塩谷 彰浩	耳鼻咽喉科	教授	27年	
加治 辰美	放射線科	教授	35年	
小須田 茂	放射線部	教授	39年	
風間 富栄	麻酔科	教授	34年	
阪本 敏久	救急部	教授	38年	
斎藤 大蔵	外傷研究部門	教授	31年	
池内 尚司	救急救命センター	教授	34年	
清澤 智晴	形成外科	准教授	32年	
中西 邦昭	検査部	教授	34年	
小林 龍生	リハビリテーション部	教授	33年	
田中 祐司	総合臨床部	教授	31年	
辻 明	輸血・血液浄化療法部	教授	33年	

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告においては、平成二十六年四月以降の実績（計画）を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 野村 總一郎	
管理担当者氏名	庶務課長 松岡 秀広 医事課長 平本 豊 薬剤部長 曾根原 亘 医療情報部長 古谷 健一	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		庶務課 医療情報部 薬剤部 手術部 看護部	カルテ等の病歴資料は医療情報部で一括管理している。外来カルテは診療科ごと、入院カルテは入院期間ごとに作成され電算機に登録管理されており、保存期間は10年である。医療記録利用規則により、院外への帯出は禁止している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課	文書管理規則等に基づき、各担当課において作成文書・分類番号・保存期間等を入力し、管理している。
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
	高度の医療の研修の実績		
	閲覧実績	庶務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項及び第九の二十第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全推進室	文書管理規則等に基づき、各担当課において作成文書・分類番号・保存期間等を入力し、管理している。
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全推進室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全推進室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全推進室	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全推進室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染対策室	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全推進室	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	感染対策室	文書管理規則等に基づき、各担当課において作成文書・分類番号・保存期間等を入力し、管理している。
	第一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策室	
	第十一条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染対策室	
	第一項各号	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策室	
	及び	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部	
	第九条	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
	第二十三	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
	第一項	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
	第一号に掲げる	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	材料部	
	体制の確保の	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	材料部	
状況	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	材料部		
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	材料部		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状	
閲覧責任者氏名	病院長 野村總一郎		
閲覧担当者氏名	各診療科部長 庶務課長 医事課長 薬剤部長		
閲覧の求めに応じる場所	病院第3会議室		
閲覧の手続の概要 閲覧者の閲覧希望の内容に応じて、該当する各閲覧担当者は諸記録を所定の閲覧場所へ集積して、閲覧に供する。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延0件
閲覧者別	医師	延0件
	歯科医師	延0件
	国	延0件
	地方公共団体	延0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： 安全管理システムの構築、医療従事者の研鑽、安全管理組織の充実、インシデントレポートの推進、医療事故発生時の対応方針、患者家族との情報交換、患者相談窓口の設置	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
・ 活動の主な内容： (1) 病院内における安全管理のための指針の整備に関すること (2) 病院内における安全管理のための医療事故の報告要領に関すること (3) インシデント報告及びアクシデント報告に基づく医療事故防止に必要な方策の策定に関すること (4) 医療事故発生時の対応要領に関すること (5) 安全管理体制確保のために必要な職員の教育研修制度に関すること	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 1 2 回
・ 研修の主な内容： (1) 医療安全研修の実践 (2) 安全対策プロジェクトチームの取り組み (3) 採用時オリエンテーション (4) 院外講師による医療安全に関する講演 (5) 麻薬施用者講習会	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： (1) 合併症事例に係る報告の義務化 (2) 院内暴言・暴力に係る報告制度 (3) 安全対策プロジェクトチーム及び小委員会において改善策を検討及び検証のための病棟ラウンド	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (2 名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1 名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
・ 所属職員： 専任 (2) 名 兼任 (2) 名 ・ 活動の主な内容： (1) インシデント報告書の収集、分析、集計等を行うとともに再発防止を検討 (2) インシデント事例及び再発防止策の職員への周知・確認 (3) 医療安全に関する研修の企画立案及び実施 (4) 安全管理マニュアルの作成及び修正	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

(様式第6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
・ 指針の主な内容： 院内感染の未然防止、発生時の迅速適切な対処を定めた基本方針、感染対策委員会、感染対策室及び感染管理チームの設置、各診療科等の感染対策管理のための責任者の配置、感染対策マニュアルの整備、院内感染発生時の対処、各種報告の義務、職員研修の実施及び患者等との情報共有	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
・ 活動の主な内容： (1) 院内感染対策に関すること (2) 院内感染管理体制に関すること (3) 集団発生するおそれのある感染症の対策に関すること	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年3回
・ 研修の主な内容： (1) 医療安全研修の実践 (2) 知っておきたい耐性菌とその対策 (3) 薬剤耐性アシネトバクターの現状と対策	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： (1) 携帯版の感染対策マニュアルを作成し全職員に配布、携帯を義務付 (2) イベント発生に即応した薬剤耐性菌やインフルエンザ等に関する職員教育の実施 (3) ATP拭き取り検査器等を使用した実地指導の実施 (4) 反復したラウンドを実施し遵守状況を数値可視化 (5) 部署毎に手指衛生使用量を計測し、1入院患者1日あたりの手指衛生回数をフィードバック (6) 蓄尿の届け出、許可制を導入	

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 5 回
・ 研修の主な内容： (1) 輸液の感染管理(2回) (2) 麻薬施用者講習会 (3) 薬剤に関する勉強会 (4) 初任者研修 薬剤の取扱い(2回) (5) 初任者オリエンテーション	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有・無) ・ 業務の主な内容： (1) 医薬品の選定 (2) 医薬品管理 (3) 調剤 (4) 薬剤管理指導業務 (5) 医薬品情報 (6) 地域薬剤師会との連携	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： (1) 医薬品の安全確認のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施 【収集方法】 ① 製薬会社医薬品情報担当者からの情報収集 ② 医薬品安全対策情報(DSU)からの情報収集 ③ PMDA、日本医療機能評価機構のHPからの情報収集 【周知方法】 ①院内メール、文書による配布、医療用端末における「掲示板」への掲示、薬剤部DIニュース (2) その他(病院独自で取り組んでいる内容) ① オーダリングシステムによる安全管理 ② 医療上からの必要性から併用禁忌薬を投与せざるを得ない場合の対処 「併用禁忌薬取扱い指針」・「併用禁忌薬取扱い要領」の策定	

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 4 4 回
・ 研修の主な内容： (1) 初任医師、看護師に対する各機器操作と安全管理 (2) 使用者に対する機器操作と安全管理 (3) 機器導入時の操作法と安全管理 (4) 使用現場巡回安全管理指導	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 (☑・無) ・ 保守点検の主な内容： 人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置をはじめとする機器について、日常点検、定期点検を院内各部で分担又は部外委託で実施	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (☑・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 病院ホームページから閲覧できる形の安全管理ガイドラインを作成し方針を示しているほか、リンク形式で添付文、マニュアル、研修内容、点検計画等の閲覧ができるようにしている。 また、院内メールを用いて随時安全情報を発信している。	

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
・情報発信の方法、内容等の概要	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 カルテは電算機に登録されており、診療に関する情報はデータベースに集約され、また、システム上で他の診療科に対して紹介することができるようになっており、簡易かつ迅速な診療の連携が可能な体制になっている。	